

学習の要点

めあて

○相手に伝えたい内容をはっきりさせるためには、どんな単語を意識すれば良いだろうか？



◇ 次の文の意味の違いについて考えてみよう。

- ・ 太郎が話す。(誰が話すのかという動作の主体、**主語**を表している)
- ・ 太郎に話す。(誰に話すのかという動作を行う相手、動作の**対象**を表している)
- ・ 太郎も話す。(同じ内容のことを並べる**同類・並立**を表している)

※ たった一文字変わるだけでも、文の意味は大きく変わってしまう。

※ 相手に伝えたい内容をはっきりさせるために使うこのような単語を「助詞」という。

※ 助詞は四種類あり、それぞれにいろいろなはたらきがある。

格助詞 (体言に付いて、その文節がどんな文の成分であるかを示す。)

ア 太郎が、話す。 イ 太郎と 話す。

主語

共同の相手

接続助詞 (用言や助動詞に付いて、前後の内容をつなげ、いろいろな関係を表す。)

ウ 太郎は、テニスもするし、野球もする。

並立

エ 太郎は、テニスはするが、野球はしない。

逆接

副助詞 (いろいろな語に付いて、さまざまな意味を付け加える。)

オ 太郎も 話さない。 カ 太郎しか 話さない。

同類・並立

限定

終助詞 (文や文節の終わりに付いて、話し手・書き手の気持ちや態度を表す。)

キ 太郎に話そうよ。 ク 太郎に話すな。 ※ ここに表した助詞以外にも

勧誘

禁止

たくさん助詞がある。

まとめ

- 相手に伝えたい内容をはっきりさせるためには、「助詞」とそのはたらきを意識すれば良い。

● 助詞は、「格助詞」「接続助詞」「副助詞」「終助詞」の四種類ある。



練習問題

次の太字の助詞のはたらきと種類について、後の選択肢から選びなさい。

ア あなたは野球ができます**か**。 イ 寒い**から**暖房をつけよう。

ウ 本を**を**読む。 エ 今度**こそ**達成したい。

選択肢	はたらき	理由	強調	対象	疑問・質問
種類	:	格助詞	接続助詞	副助詞	終助詞



解答

ア	(は)	疑問・質問	(種)	終助詞
ウ	(は)	対象	(種)	格助詞
エ	(は)	理由	(種)	接続助詞
イ	(は)	強調	(種)	副助詞